



「宇宙飛行プラン」が45万円、「宇宙探査プラン」が250万円など料金はプランによって異なる

こんな“お墓”もあるんです!

ロケット葬

遺灰入りのカプセルをロケットで大気圏外に打ち上げる「宇宙葬」を昨年からスタートさせたのが銀河ステージ社だ。すでに5人の方の宇宙葬を実施しました。元プロ野球選手の故・富田勝さん（元南海ほか）が来年1月～3月にフライ予定です。ロケットで打ち上げる「宇宙飛行プラン」のほかに、宇宙探査機に搭載される「宇宙探査プラン」などがあります（広報担当者）

ロケットの打ち上げはアメリカで行われ、遺族向けツアーも実施している。

これまでの形にこだわらない、新しい“おくりかた”も増えている。



基本葬送費用は24万円、遺骨の粉末化は別途2万円かかる

遺骨を粉末状にしてから一重構造のバルーンに封入。ヘリウムガスを注入し、直径約2メートルに膨らんだところで空に放つ。「2時間後には高度30～35キロメートルの成層圏付近まで到達し、気圧の関係で3～4倍に膨張して宇宙に散骨されます」（事業を開拓するバルーン工房の担当者）

バルーンは色や柄が選べる。利用者の多くは生前に予約をしているという。「宇宙はロマンがあっていい。空だからどこにでも挨拶ができる」とお話しになつていた方もいました（同前）

バルーン宇宙葬

石碑ではなく桜の木を墓標とする「樹木葬」を提供するのがNPO法人エンディングセンターだ。

「私たち『桜葬』と呼んでいます。シンボルツリーの周りをいくつのかの区画に分けて遺骨を埋葬。個別区画（25センチ）と他の方と一緒にに入る共同区画がある。契約する方は純粹に自然に帰りたいという思いがあるのでしょう」（同センターの井上治代・理事長）

共同区画の契約者が生前に集まり、「墓友」として交流するイベントもある。

樹木葬



遺骨が納まる「おもいで碑・地蔵」（京都ひろくに屋）は7万1280円

手元供養

遺灰を納めた小型の骨壺などを使った「手元供養」も人気だ。NPO法人手元供養協会の山崎謙一・会長がいう。

「小型の骨壺のデザインが豊富になつてき、お地蔵さんを模したものなど一見すると骨壺には見えないタイプもあります。ペンダントなどのメモリアルジュエリーも増えてきた。散骨と組み合わせて、遺灰の一部を手元に残しておく人が少なくありません」

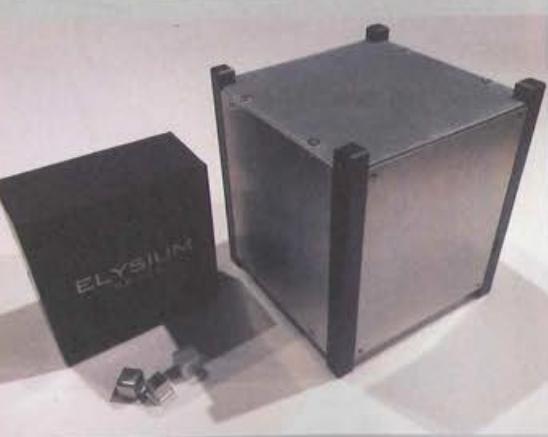
身近な場所に置ける“自宅墓”としての役割を果たしている。



個別区画は40万円、共同区画は20万円から購入できる

全国で海洋散骨を実施する事業者が集まつた日本海洋散骨協会には20業者が加盟している。昨年までの8事業者から大幅に増え、人気の高まりがうかがえる。「海洋散骨のために用意される船は3人乗りの小型船から100人乗りの船まで様々です。遺灰と一緒に献花・献酒もできますが、自然に還らない副葬品は撒けません。周忌クルーズを希望する方もいるので、散骨場所がわかるよう縦度、経度を示した証明書を交付しています」（同協会の村田ますみ・代表理事）

海洋散骨



「流れ星供養」は30万円

流れ星葬

人工衛星が投入される軌道を数日～数年間周回し、大気圏に再突入して燃焼する「流れ星供養」も話題だ。

「アルミニウム合金製のカプセル（写真）に遺灰の一部を入れ、人工衛星に格納します。発射後、打ち上げの成功を示す証明書、並びに北米航空宇宙防衛軍（NORAD）によって割り当てられた、追跡用照合IDなどを提供する。弊社のモバイルアプリを通じて人工衛星の軌跡を辿ることもできます」（サービスを提供するエリジウムベースの担当者）



船のチャーター代を含めた散骨プランは約20万～30万円。合同乗船であれば10万～15万円ほどが相場だ